

大石 実・大石加代子 著

アメリカ医学留学の手引 第5版

中村 三郎（日大教授，日大練馬光が丘病院院長）

医師の留学先としてはアメリカが圧倒的に多く、カナダ、イギリス、ドイツ、フランスなども多少ある。その理由としては、アメリカが学問的に進んでいる分野が多いのに加えて、アメリカでレジデント研修を受けようとする外国人医師を対象に医学と英語の試験を行い、合格者にはアメリカでの臨床研修を許可している国際性があげられる。アメリカ医学留学を志す人のために、試験の受け方、留学先の探し方、ビザの取り方、アメリカでの免許の取り方などを詳しく説明した手引きが本書である。

新しい医師留学試験 USMLE

アメリカでレジデント研修をするための留学試験は、私が留学した頃は ECFMG 医学試験であったが、その後 VQE になり、次いで FMGEMS になり、1993 年から USMLE になった。本書は留学試験の変遷と共に改訂を繰り返し、第5版では USMLE に関しても詳しく解説してある。この新しい留学試験は United States Medical Licensing Examination という名前が示すとおり、アメリカの医学生が受ける試験と同じであり、アメリカ人と外国人を学問的には差別しないという原則に基づいている。この試験は東京でも受けられるので、将来アメリカでレジデント研修をしようと思っている医師や医学生は、自分の実力をためす意味でも一度は受験したほうがよい。

研究者の留学にも便利

医学は国際的な学問であり、私共の病院にも研究を目的に外国に留学した人はたくさんいる。本書にはアメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、フランス

のすべての医科大学の住所が載っており、留学先をみつけるために手紙を出す場合にも役立つ。奨学金、ビザの取り方、留学準備、アメリカでの生活などに関しても書いてあるので、留学前に読んでおくと便利と思われる。

看護婦や薬剤師の留学試験もある

アメリカの病院で働きたい外国人看護婦を対象にした CGFNS 資格試験についても解説してある。この試験は東京でも受けられ、合格者はアメリカ人の看護婦と同じ給料で雇ってもらえる。アメリカで研修をしたい外国人薬剤師を対象にした FPGE という試験もあり、本書にはこれらの試験はもちろん、パラメディカル留学方法についても解説してある。

英独仏語の勉強にも役立つ

また、本書には 50 ページ以上におよぶ外国語の章があり、英語の論文の書き方、外国語の綴字記号、各国語の発音規則、英独仏語対照表などが載っている。フランス人の名前の付いた症候群をフランス語式に発音する時などに、本書のフランス語の発音規則は役立つ。本書の英独仏語対照表ではドイツ語やフランス語の読み方をカタカナ表記してあるので、初心者にもわかりやすく、3 か国語をまとめて勉強できる。

このように、本書には実際に役立つ情報が満載されている。海外留学を志す医師はもちろんのこと、広く医療関係者の方々に格好の書であり、是非一度手にとってみられることをお勧めしたい。

（A 5 判 272 頁 3,914 円（税込）1993 医学書院 刊）